

# 平成 29 年度 東京都・八丈町・青ヶ島村合同総合防災訓練の実施について

東京都は、八丈町・青ヶ島村と合同で下記のとおり総合防災訓練を実施しましたので、お知らせします。

## 1 訓練名

平成 29 年度 東京都・八丈町・青ヶ島村合同総合防災訓練

## 2 目的

海を隔てた島しょ地域において、地震及び地震に伴う津波、土砂崩れ、火山噴火などの大規模災害が発生した際に被害を最小限に抑えるため、自助・共助による地域防災力の向上及び迅速な避難・誘導等を中心とした実践的訓練を実施しました。

## 3 実施日時

平成 29 年 11 月 5 日（日曜日） 7 時 30 分から 12 時 00 分まで

## 4 特徴

西山（八丈富士）噴火及び南海トラフ大地震の発生に伴う災害対策全般にわたる対応訓練

## 5 参加機関・規模

東京都、八丈町、青ヶ島村、警視庁、東京消防庁、陸上自衛隊、海上自衛隊、航空自衛隊、海上保安庁、ライフライン機関、地元消防団、住民 ほか 約 3,500 名

## 6 主な訓練会場

- (1) 八丈町各地域（三根、大賀郷、檜立、中之郷、末吉）、青ヶ島村全域  
地震による津波の発生を想定した高所への避難訓練及び火山噴火を想定した避難訓練  
町役場による避難所への避難者誘導
- (2) 青ヶ島村  
火山噴火を想定した避難訓練
- (3) 都立八丈高等学校  
関係機関が連携した倒壊家屋等からの救出・救助、ヘリによる部隊投入・ホイスト救助、医療救護班によるトリアージ等の初期医療救護活動、電気・水道・通信等ライフラインの応急復旧、展示・体験ブース出展、炊き出し など
- (4) 青ヶ島村小中学校  
展示・体験ブース出展、応急復旧等訓練 など
- (5) 八丈島空港、青ヶ島村ヘリポート  
空路を活用した物資支援訓練、部隊車両投入訓練 など
- (6) 神湊（底土）港  
火山噴火災害からの島外避難、公的機関による海難救助 など

(6) 八丈町役場、青ヶ島村役場

八丈町災害対策本部、青ヶ島村災害対策本部の設置

## 7 訓練の様子

(1) 八丈町避難誘導訓練

地震時における総合的な避難訓練と火山噴火時における避難訓練を併せて行い、八丈町及び防災関係機関並びに住民がとるべき防災処置を実践し、地震災害、火山噴火災害に対応した防災対策の習熟と防災関係機関相互の協力連携体制の確立を図りました。



バスによる住民避難

(2) 青ヶ島村避難誘導訓練、展示体験、応急復旧訓練

火山噴火時における避難訓練を行うことにより、青ヶ島村及び防災関係機関並びに住民がとるべき防災処置を実践し、火山噴火災害に対応した防災対策の習熟と防災関係機関相互の協力連携体制の確立を図りました。また、防災関係機関による展示ブースの出展や、応急復旧訓練により、防災に対する意識の醸成を図りました。



本部審議訓練の様子（青ヶ島村）



青ヶ島村ヘリポートに移動する住民



青ヶ島村小中学校に避難する住民

### (3) 本部審議訓練

八丈町地域防災計画では、被害状況の把握等を目的に、発災後ただちに災害対策本部を設置することになっています。今回の訓練では、地震の発生により津波が発生したとの想定のもと、ただちに関係機関の災害対策要員、連絡員が参集するなどして、八丈町内に災害対策本部を設置しました。八丈町災害対策本部長（町長）からの被害状況等の報告、各防災機関からの現状が報告され、今後の対応方針について審議し、本部長からの指示の伝達がなされました。



本部審議訓練の様子（八丈町）

### (4) 部隊車両投入訓練

海を隔てた島しょ地域における災害時には、各防災機関の人員、車両や資機材等を、どのような手段を用いて、そしていかに迅速に被災地に派遣するかが大きなポイントとなります。

今回の訓練では、航空自衛隊小牧基地所属の固定翼機「C-130H」に東京消防庁「救助車IV型」を搭載し、小牧基地から八丈島空港まで空輸しました。救助車両は、八丈高校会場での救出救助訓練に投入され、救出・救助活動を展開しました。



航空自衛隊「C-130H」



部隊車両投入状況

### (5) 住民による自助・共助訓練

大規模な地震が発生すると、多くの建物が倒壊し、大勢の人々が建物の下敷きになる事態も想定されます。こうした際には、公的救助機関が到着するまでの間に、住民同士が互いに助け合う共助の活動が重要となります。

今回訓練では、八丈町消防本部及び消防団の指導により、八丈高校の生徒が訓練員として参加し、身近な資機材（ジャッキ、物干し等）を使用した救出救助訓練、応急措置訓練等を実施しました。



負傷者救出救助



心肺蘇生法による応急措置

## (6) 救出救助訓練

訓練会場である八丈高校では、多数の家屋倒壊が発生し、建物内に多数の負傷者取り残されている事態を想定し、島内の消防団・消防本部に加え、島外からの警察・消防・自衛隊といった救助機関による救出救助活動が展開されました。



八丈町消防団の活動



バイク隊進出



車両からの救出



倒壊家屋からの救出



倒壊家屋からの救出



ヘリコプターによるホイスト救助



高所からの救出



延焼阻止訓練(一斉放水)

#### (7) 医療救護班活動訓練

島しょにおける災害発生時には、医療従事者による公助のほか、住民自身による自助・共助も含めた医療救護活動が不可欠となります。今回の訓練では、八丈町にて震度5強の地震及び土砂災害が発生し、相当数の負傷者が発生・救出され、保健福祉センターに緊急医療救護所を開設したとの想定のもと、実施しました。



トリアージエリア



重症エリア (二次トリアージ)



救急車搬送

#### (8) 展示・体験、応急復旧訓練

八丈町会場（都立八丈高校）では、防災関係機関による展示・体験ブースの出展、特殊車両の展示、ライフライン施設の応急復旧の実演等を実施しました。

青ヶ島村会場（村立小・中学校）では、防災関係機関による展示・体験ブースの出展や消防団による放水訓練体験等を実施しました。

各防災機関により、災害対策に向けた取り組みの紹介、災害時における情報通信手段の体験、初期消火や応急救護訓練等を行い、訓練参加者に対して幅広く防災知識に関する普及・啓発を行

いました。普段、防災機関とのかかわりが少ない島民に対して防災への取組みを紹介する数少ない機会であり、島民と防災機関の双方にとって有益な機会となりました。



展示ブース出展



特殊車両展示

#### (9) 炊出し訓練

八丈町会場（都立八丈高校）にてカレーライスや五目ご飯、ワカメ御飯の炊出しを実施し、ご来場頂いた皆様へ配食しました。



陸上自衛隊・日本赤十字社・ボランティアによるカレーの炊き出しの様子

#### (10) 火山噴火災害を想定した島外避難訓練

八丈島南部の坂上地域は、西山（八丈富士）の噴火に伴う火山灰や溶岩の流出等により、島の主要道路である215号線、216号線が寸断された場合に孤立する恐れがあります。最も孤立が危惧される洞輪沢地区からの避難方法を検証するため、渡船で沖合に停泊している海上保安庁の巡視船まで避難する方法を訓練しました。

この訓練は、海難救助訓練会場に近い神湊漁港を洞輪沢漁港と想定し、渡船に乗って避難を開始した八丈町の職員が、神湊漁港の沖合300m付近で巡視船と合流し、乗り移ることができるかを検証した訓練です。



島外避難訓練の様子

#### (11) 海難救助訓練

火山の噴火が切迫している場合や噴火が発生した場合には、住民が居住地に近い漁港から漁船等で自主避難する可能性があります。

本訓練では、火山の噴火が切迫しているという状況の中、海上自衛隊、海上保安庁、東京消防庁の3機関がすでに八丈島で支援活動を実施しているという条件のもと、自主避難中の漁船に海難事故が発生したという想定を加え、海上での救助訓練を実施しました。



海難救助訓練の様子



海難救助訓練の様子

#### (12) 物資搬送訓練

神湊（底土）港において、都の支援物資（都備蓄倉庫より供出し、東海汽船の船舶により八丈島まで海上輸送を行った想定）を東京都トラック協会の現地トラックへ積載し、避難所協定の訓練会場（都立八丈高校）まで車両輸送を実施した。

また、在日米海軍が本訓練に参加し、厚木基地から八丈島空港までヘリによる支援物資の空輸を行った。その後、支援物資を東京都トラック協会の現地トラックへ積載し、避難所協定の訓練会場（都立八丈高校）まで車両輸送を実施した。



在日米軍による支援物資の空輸の様子